

住民と自治 11

2020. NOV.

JUMIN TO JICHI MONTHLY

連続企画 「新型コロナ」から日本の社会を考える 第5回 危機状況で明確になった議会の課題 江藤俊昭

特集 地方再生と第2期地方創生総合戦略

対抗軸は、住民自治による地域社会の復活・振興 保母武彦

オーストリア山岳農村の創生に学ぶ 石倉 研

第1期地方創生とは何だったのか—静岡県に見る「地方創生」の現実 川瀬憲子

汚れた「水の都・三島」を再生「グラウンドワーク三島」のノウハウ 渡辺豊博

認知症の人とともに築く総活躍のまち御坊市 鈴木裕範

小さな町の少子化への挑戦—教訓と、今、抱えている課題 森藤政憲

小規模多機能自治による住民主体のまちづくり 大谷吾郎

北海道東川町の総合的な町づくりとその教訓 守屋貴司

◆シリーズ 第32次地方制度調査会答申を読み解く

第3回 第32次地方制度調査会答申における「公共私の連携」 門脇美恵

新市庁舎の建設を問うた垂水市の住民投票 上田道明

「生産性向上」で介護の質は守れるのか—全世代型社会保障検討会議のねらい 濱畠芳和



汚れた「水の都・三島」を再生へ

汚れた「水の都・三島」の環境資源を、市民・NPO・行政・企業のパートナーシップによる地域協働の仕組みで再生した「グラウンドワーク三島」の先進的なノウハウとは。

豊かな水辺自然環境が再生・復活

静岡県三島市でグラウンドワーク三島の活動が始まって以来28年が経過しました。市内には70カ所の実践地が点在しています。環境改善地区は劇的な環境変化を現出し、市民・NPO・行政・企業のパートナーシップによる環境改善活動の有益性、行政費の節約効果、企業の社会参加の場など「社会的波及効果」を実証しています。

グラウンドワーク三島の活動の特徴は、議論や提案だけに終わらず、それらを具現化・実現化するために、具体的な行動を発意し、成果や実績を残すことを理念としています。各界各層の関係者が集い、「まちは誰のものか、まちの魅力とは何か、次世代に残すまちの宝物とは何か」など、課題解決のため的具体的な処方箋・解決策を議論百出で発意・実行していきます。

まさにグラウンドワーク三島は、複雑に絡み合う、多様な利害者の調整仲介の役割を担い、地域特性を踏まえた上で、さまざまな「人間ネットワーク」を駆使した、専門的能力と人材を有する「中間支援NPO」といえます。今では、多くの市民や来訪者が憩う魅力的な「水辺空間」が街中に整備され、ホタルやカワセミなどが生息する豊かな水辺自然環境が再生・復活されています。

右手にスコップ・左手に缶ビール

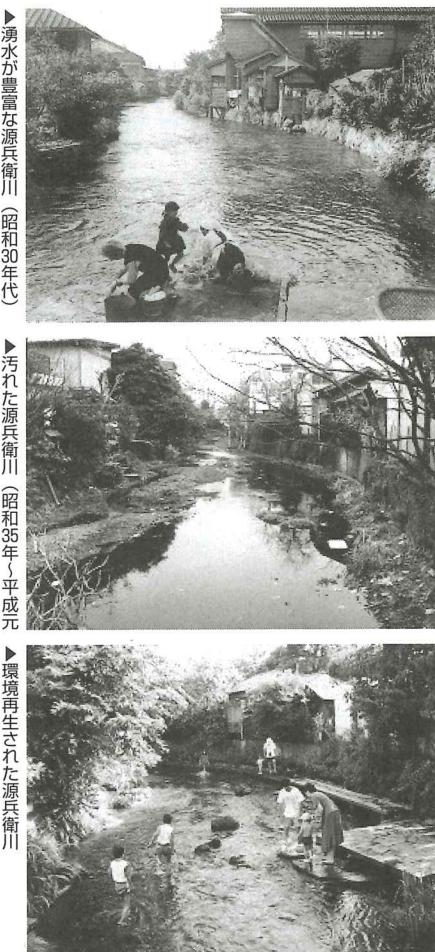
グラウンドワーク三島はこれまで、ゴミが捨てられ汚れた源兵衛川を清流に蘇らせた水辺再生を始めとして、環境悪化で市内から消滅した水中花の増殖地である三島梅花藻の里の整備、ほたるの里づくりとほたるの学校の開校、歴史的遺産のお不動さん・水神さん・井戸・湧水池の保全、貴重な河畔林・松毛川の森づくり、富士山からの湧水が噴出す



わたなべとよひろ
渡辺豊博

NPO法人グラウンドワーク三島事務理事
1973年東京農工大学卒、1973年静岡県庁に入庁し農業基盤整備事業などを担当、1992年グラウンドワーク三島設立。2008年都留文科大学教授（市民活動論等開講）、2015年より同兼任教授。

る境川・清住緑地の再生を図っています。市民の手づくりによる鎌坂公園・鏡池公園・みどり野ふれあいの園などのミニ公園整備を実施し、身近な環境改善をスローガンとするグラウンドワーク三島の典型的な事業になっています。さらに、環境教育活動の一環として「環境出前講座」や「鎮守の森探検隊」など自然観察会の開催や源兵衛川での現場体験型学習、長伏小学校・三島南高校などの学校ビオ



▶湧水が豊富な源兵衛川（昭和30年代）

年

▶汚れた源兵衛川（昭和35年～平成元年）

▶環境再生された源兵衛川

国ナショナルトラスト江華バイカモ保護委員会」と交流協定を締結しています。

しかし、今、「水の都・三島」に不釣合なまちづくりが始まろうとしています。三島駅南口東街区での再開発事業が3年前から本格化し、開発事業者の公募が実施され、ミサワホームなどの企業体による高さ100メートルのタワーマンションと商業施設設計画が採択され、土地計画決定の手続きが進められています。地下水への悪影響や富士山の眺望阻害、56億円もの市民負担などが懸念されると共に、新型コロナウイルスの感染拡大の中、人と施設を駅前に集中させて「密」をつくる、そんな危険なまちづくりを見直すための住民投票の署名活動が進められています。

グラウンドワーク三島のまちづくりは、市民創意・市民参加・市民協働のまちづくりであり、下から上へのボトムアップアプローチによる「市民公協事業」です。開発阻止の困難にめげずに、環境重視の水と緑と文化を生かした「疎」のまちづくりを開拓していきます。

今後とも、我が国を代表するまちづくりの先進的な「現場モデル」を先導する社会的役割を担えるように、環境資源を活用したまちづくりの闘いを持続していきます。